

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：北尾 美香

研究分野	研究内容のキーワード
小児看護学	レジリエンス、口唇裂・口蓋裂、熱性痙攣
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 看護計画の展開（PBL）でのルーブリックを使用した他者評価の実施	2017年4月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。事例を用いて小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開で、講義の最終回に関連図、問題明確化、看護計画の立案を他のグループが匿名で評価を行った。評価をする際には、ルーブリック形式の他者評価票を使用した。他のグループの学生が理解できる内容とするために、具体的にどのような関連図、問題明確化、看護計画とする必要があるのかを意識させながらグループワークを実施できた。
2. 看護計画の展開（PBL）でのプレゼンテーションの実施	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開では、グループワークでまとめた関連図、問題明確化、看護計画の立案について、学生がプレゼンテーションを行った。時間が限られているため、発表するグループは当日のくじで決定した。プレゼンテーション10分、質疑応答5分として、発表が当たらなかったグループも司会やタイムキーパー、質問をするようにした。
3. 離乳食の試食	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。離乳食、調乳の演習では、発達段階ごとの離乳食の特徴やその違いについて理解を深めるために、学生が実際に離乳食を試食している。演習後のレポートでは、講義だけでは理解し得ない味や食感を体験できたことで、離乳食についての関心や理解が深まったという記述が多く見られた。
4. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う小児のバイタルサイン測定の実施	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。小児のバイタルサイン測定の演習では、測定時の学生の表情や声かけが客観的に理解できるように、ベッド上にスマートフォンのスタンドを置いて動画を撮影した。子どもがどのような視点でバイタルサインを測定されているのか、学生はどのような表情で声かけをしているのかが分かり、学生からは「測定することで精一杯で声かけが十分にできていなかった」「顔がこわばっていたので、もっと笑顔が必要だった」という意見があった。
5. 患児の事例に合わせたおもちゃの制作	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、6つの患児の事例から1つを選択し、患児に合わせたおもちゃを制作した。おもちゃは空き容器、ペットボトル、牛乳パックなどを使用して低コストで作成できることを条件とした。学生は、授業の時間内に工作を行い、完成したおもちゃの写真をレポートに添付して、使用方法や作成の意図などを書き提出した。
6. 事前課題としてのインターネット上の動画の視聴	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。小児の点滴固定の演習では、教員が制作した点滴固定の動画をweb上にアップロードし、学生は事前課題として動画を視聴して手順を図にまとめ、演習当日に実施する方法を取り入れた。学生からは「事前に動画を視聴しておくことで具体的な手順がイメージできた」という意見が多数みられた。
7. ジグソー法を取り入れた看護過程の展開（PBL）の実施	2016年9月～現在	武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開の際にジグソー法を取り入れた。4名1グループの編成となり、学生は4つのアセスメントをそれぞれ担当する。担当したアセスメント同士の学生で集まり、エキスパートグループでグループワークをしてアセスメントをまとめる。もとのジグソーグループに戻って自身が担当したアセスメントについて他のメンバーへプレゼンテーションをする。4つのアセスメントを統合させて相談しながらグループワークを進めて、関連図の作成、問

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8. スマートフォンで撮影した動画で振り返りを行う絵本の読み聞かせの実施	2016年9月～現在	<p>題明確化、看護計画の立案をする。4名1グループと少人数制にすることで全員が参加でき、担当があることで学生各自が責任を持ってグループワークを実施している。</p> <p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）で実施した。遊びと読み聞かせの演習では、前回の講義で習った絵本の読み聞かせの方法を実践するために学生間で絵本の読み聞かせを行った。ただ読み聞かせをするだけでは、自身がどのような声色、スピード、表情で読んでいるのかが理解できないため、学生はスマートフォンで動画を撮影し、自身で動画をみながら振り返り感想を書いた。学生からは「思っていたよりも早口で読んでいたので、気をつけたい」「読むことに集中していて表情が硬かった」などの意見がみられた。</p>
9. 自己評価ルーブリックを使用した看護計画の展開(PBL)の実施	2016年4月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）、「チャイルド・デベロップメンタル・アプローチ」（専門科目、3年次配当、必修1単位）で実施した。小児の患者と家族を対象とした看護過程の展開をする際に自己評価ルーブリックを使用した。グループワークの各回の振り返りとしての自己評価をする際に、ルーブリックで望ましい学習熟度を具体的に示した。このことで、学生は毎回の授業でどのように取り組めばより高評価になるかが具体的に理解でき、教員との共通理解を深めることができた。</p>
10. 講義の配布資料の工夫	2016年4月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。学生への配布資料はパワーポイントのスライドを元に作成し、重要な用語については穴抜きとした。学生は講義を聞きながら穴抜きの箇所を記入しなければならないため、集中力を途切れさせずに講義を聞くことができる。学生は記入する箇所が多く過ぎると、記入することばかりに集中してしまうため、各スライドに1、2箇所のみ穴抜きとした。学生からは「眠くならず集中できた」というコメントが多くみられた。</p>
11. ミニツペーパーを用いた双方向の授業	2016年4月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。毎回の講義の最後に、学生はミニツペーパーを書き提出した。ミニツペーパーには、今日の講義で学んだこと、感想、質問を書いてもらった。提出されたミニツペーパーの内容を読むことで、学生は講義のどのような内容に興味をもったのか、また難しいと感じたポイントはどこなのかよく理解できた。また、質問が書かれた際には次回の講義で回答した。このようにすることで、教員からの一方的な授業ではなく、学生からの反応にフィードバックできる双方向の授業ができています。</p>
12. 視聴覚教材を用いた教育実践	2016年4月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。講義では小児の健康障害とその看護について理解することを目的としている。そこで、小児の疾患の症状やそれに対する看護援助の方法について、写真や動画を用いて学生が視覚から理解しやすいように工夫をして講義を行った。その結果、「講義は写真や動画を見る機会が多く、視覚的に理解がしやすかった」という意見が多数みられた。</p>
13. 自己学習票の持ち込みを可とした小テストの実施	2016年4月～現在	<p>武庫川女子大学看護学部講義科目「小児看護学Ⅰ」（専門科目、2年次配当、必修2単位）、「小児看護学Ⅱ」（専門科目、2年次配当、必修1単位）において実施した。講義の最後に毎回小テストを実施した。問題は前回の講義内容より、看護師国家試験の過去問を2、3問出題した。小テストは、前回の講義後に配布された自己学習票(A5サイズで左半分のみ書き込み可)の持ち込みを可とした。自己学習票の持ち込みをするには講義が終わってから書き込まなくてはならないため、学生に復習の習慣をつけることができた。小テスト後に、教員が問題の解説を行い、学生が自己採点をした。「講義で聴く」「講義後にテキストを見直す」「自己学習票にまとめる」「小テスト中にまとめた内容を読む」「小テストの解説を聴く」「定期試験前に復習する」と最低6回は反復して学習ができた。これまでに前回の講義を欠席した学生を除いて、自己学習票を白紙の状態でも提出した学生はおらず、講義内容の復習につながっている。</p>
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 久米田看護専門学校2年生への授業	2016年10月から2016年12月	久米田看護専門学校2年生対象の小児看護学援助論Ⅱ（2年次、2単位、必修科目）のうち4回の講義（腎・泌尿器

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		および生殖器疾患と看護、神経疾患と看護、悪性新生物と看護、血液・造血管疾患と看護)を行った。
4 その他		
1. 武庫川女子大学 国試対策担当	2016年4月～現在	看護学部为国試対策員として、集団指導や個別指導に取り組んでいる。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. ファンフレンズファシリテーター	2016年7月	
2. グループトリプルPファシリテーター	2014年12月	
3. 応急手当普及員	2011年8月	
4. 看護師		
5. 精神保健福祉士		
6. 養護教諭専修		
7. 保健師		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 兵庫県看護協会 再就業支援研修会	2017年9月から現在	兵庫県看護協会の再就業支援研修会にて、原則未就業者で就職を希望・計画されている看護師資格所有者を対象に、フィジカルアセスメントの演習を行っている。
2. チャイルドケアミーティング	2016年4月～現在	兵庫医科大学病院を主とした阪神間の病院の看護職と兵庫医療大学および武庫川女子大学の教員で、健康障害を有する小児の事例検討および看護職への講義を行っている。
3. 高校生への看護学の模擬授業	2016年12月～現在	高校生に対し、大学の看護学部ではどのようなことを学ぶのか、看護学部にはどのような特徴があるのか、看護師の仕事、バイタルサインの意味、バイタルサインの測定方法について模擬授業を行っている。
4. 武庫川女子大学「サマースクール」	2015年8月～現在	武庫川女子大学サマースクールにて小学生を対象とし、2015年度は清潔（手洗いの必要性和手洗い方法）、2016年度は心臓の働きに関する健康教育を行った。
5. 大阪府立寝屋川支援学校教員研修	2011年4月～2014年3月	大阪府立寝屋川支援学校において、教職員向けにてんかんを持つ子どもへの対応に関する講義や、救急救命講習を行った。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況およびけいれん後の対応	単	2011年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻修士論文	地域の小児科クリニック16箇所を受診した乳幼児の母親で、1年以内におが子の熱性けいれんを経験した者を対象にした質問紙調査によって、けいれん時の対処行動、心理的状況、その後の対応の現状と関連を分析した。
3 学術論文				
1. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫（査読付き）	共	2017年7月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション、47, 107-110	小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
2. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が医療者に期待する支援と実際に受けた支援（査読付き）	共	2017年7月	日本看護学会論文集：ヘルスプロモーション、47, 103-106	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 小児用転倒・転落リスクアセスメントツール C-FRAT第3版の評価者間信頼性の検証（査読付き）	共	2017年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 2, 45-51	<p>親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子</p> <p>小児用転倒・転落リスクアセスメントツールC-FRAT (Child Falls Risk Assessment Tool)第3版の評価者間信頼性を明らかにするため13名の看護師の一致度を調査した。各アセスメント項目のカッパ係数は0.414~1.000であり、リスク判定結果のカッパ係数は0.852であった。</p> <p>本人担当部分：結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子</p>
4. 専門医療機関の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親に対する看護援助の内容とその問題（査読付き）	共	2016年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 1, 53-61	<p>口唇裂・口蓋裂の治療を行っている専門病院での看護経験の豊富な看護師11名の面接調査を行った。母親に対する看護についての語りから、専門医療機関外での看護援助の内容と看護援助をする上で看護師が感じている問題を抽出し、カテゴリ化した。看護師は、専門医療機関内での援助と出向して行う看護援助を多様に実施しており、実施するうえの看護師間の連携や病院組織のシステムに関する問題を認識していることが明らかになった。</p> <p>本人担当部分：結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、池美保、西尾善子、松中枝理子、藤田優一、新家一輝、高島遊子、植木慎悟、北尾美香、石井京子</p>
5. 臨地実習指導者経験による看護師の小児看護学実習に対する認識と職務ストレスおよび看護キャリア認知の差異（査読付き）	共	2016年3月	日本看護学教育学会誌, 25(3), 25-35	<p>小児看護実習を受け入れている病棟の看護師を対象に質問紙調査を行い、臨地実習経験の有無が小児看護学実習に対する認識、職務ストレスおよび看護キャリア認知において差異があるかを分析した。</p> <p>本人担当部分：結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、木村涼子、林みずほ、高島遊子、新家一輝、植木慎悟、北尾美香、藤田優一</p>
6. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動と心理的状況（査読付き）	共	2014年3月	外来小児科, 17(1), 2-9	<p>地域の小児科クリニック16箇所において、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、回収された135名のうち不備の多いものを除く106名を分析対象とし、熱性けいれん時の対処行動と心理状態の特徴を分析した。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤原千恵子</p>
7. 看護職者のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知（査読付き）	共	2011年1月	第41回日本看護学会論文集:看護総合, 41, 52-55	<p>研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子</p>
8. 看護職者による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係（査読付き）	共	2011年1月	第41回日本看護学会論文集:看護総合, 41, 56-59	<p>研究協力が得られた13施設の3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、回収された341名のうち不備が多かった回答を除外し、303名を分析対象とし、看護職者のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
9. 看護職者による患者家族のレジリエンスを引き出す支援とその支援に影響する要因（査読付き）	共	2010年12月	家族看護研究, 16(2), 46-55	<p>、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、北尾美香、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子、</p> <p>3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンスを引き出す支援、およびその影響する背景要因を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p>
10. 育児体験ストレスに小児看護学実習が与える影響の主観的・客観的判定（査読付き）	共	2008年2月	第38回日本看護学会論文集：小児看護, 38, 173-175	<p>小児看護実習を終了した学生10名と未終了の学生10名を対象に、啼泣乳児モデルの世話を実施した前後に脈拍や唾液を使用し生理的指標と心理学指標を用いて、乳児の啼泣から受けるストレスの程度を比較分析し、小児看護学実習の受講の有無による影響を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、北尾美香、石井京子、藤原千恵子</p>
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因	共	2017年9月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	<p>小児科外来の看護師が認識する「保護者の外来への満足度」との関連要因について明らかにするため、小児科外来に勤務する看護師を対象に自記式の質問紙調査を行った。看護師が認識する保護者の満足度の平均は100点中57.8点であった。満足度と有意な相関があった要因は、診察までの待ち時間、医師と看護師間の人間関係、看護師間の人間関係、複数の検査がある場合は結果がでるまでの時間が長い検査から実施する、処置検査時のプレバレーションの実施などであった。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子</p>
2. 小児科外来の看護師が行っている診療や看護をスムーズにさせるための情報収集と情報共有の方法	共	2017年9月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	<p>小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。27コード、8サブカテゴリー、2カテゴリー【情報の把握】【看護師間の情報共有】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、藤原千恵子、竹島泰弘</p>
3. 採血場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年9月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	<p>小児科外来の採血場面において診療や看護をスムーズにさせるために看護師が行っている判断や技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察およびインタビューを行った。25コード、7サブカテゴリー、2カテゴリー【確実な採血の実施】、【安心・安全な採血の実施】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、吉田陽子、藤田優一、北尾美香、藤原千恵子、竹島泰弘</p>
4. 診療場面において小児科外来の看護師が診療や看護をスムーズにさせるために実施している判断や技術	共	2017年9月	第27回日本外来小児科学会年次集会（三重県津市）	<p>小児科外来の診療場面において、診療や看護をスムーズにさせるための看護師の技術を明らかにするため、看護師5名を対象に参加観察とインタビューを実施した。28コード、5サブカテゴリー、2カテゴリー</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
5. What to Do Until the Ambulance Arrives: Nursing Practices at Pediatric Outpatient Departments in Japan	共	2017年8月	2 nd APNRC (台北)	<p>【医師との協働】【スピーディーな行動】に類型化された。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：吉田陽子、藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子、竹島泰弘</p> <p>小児科外来で救急車が到着するまでに看護師が実施していることを明らかにするために質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは27件あった。カテゴリーは「医療機器の準備」「患者の情報収集」「患者の事前受け付けをする」「医療者を呼んでおく」「実施マニュアルの掲示」などがみられた。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、植木慎悟、北尾美香、藤原千恵子</p>
6. 口蓋裂児に病気のことを話す時期や内容に関する父親と母親の認識	共	2017年5月	第41回口蓋裂学会学術集会 (東京)	<p>口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親と父親を対象に、子どもに病気のことを話す時期や内容について、専門外来受診時に質問紙調査を行った。話している時期は3歳であった。話している内容については多岐に渡っていた。</p> <p>本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、熊谷由加里、北尾美香、松中枝理子、池美保、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子</p>
7. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の育児に対する認識	共	2017年5月	第41回口蓋裂学会学術集会 (東京)	<p>口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた父親80名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族としての視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。</p> <p>本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：松中枝理子、北尾美香、熊谷由香里、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子</p>
8. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の育児に対する認識	共	2017年5月	第41回口蓋裂学会学術集会 (東京)	<p>口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、育児に対する認識を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「子どもの育ちへの期待」「子どもに対する感情」「疾患に対する感情」「家族に対する視点」「育児に対する親としての姿勢」がみられた。</p> <p>本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：藤原千恵子、熊谷由香里、北尾美香、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一</p>
9. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親が認識する「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」	共	2017年5月	第41回口蓋裂学会学術集会 (東京)	<p>口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ父親を対象に、闘病過程で「自身や子ども、家族にとって支えになったこと」を明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親80名を分析した。「医療者・病院のスタッフ」「医療」「家族」「同じ疾患の子どもを持つ親」「友人・知人」の対応や存在、「自分の考え・経験」「経済面」が支えになっていた。</p> <p>本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、熊谷由香里、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子</p>
10. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親が認識する「自身や子ども、家	共	2017年5月	第41回口蓋裂学会学術集会 (東京)	<p>口唇形成術や口蓋形成術後から小学校在籍までの子どもをもつ母親を対象に、闘病過程で「自身や子</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
族にとって支えになったこと」				
11. The Current Status of Pediatric Outpatient Departments in General Hospitals in Japan	共	2017年3月	20 th EAFONS (香港)	も、家族にとって支えになったことを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、自由記載項目に記載していた母親149名を分析した。「医療」「医療者」「家族」「自分自身」「友人・知人」「体験者間」の対応や存在が支えになっていた。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：熊谷由香里、北尾美香、松中枝理子、池美保、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、藤原千恵子
12. Challenges for Pediatric Outpatient Nurses	共	2017年3月	20 th EAFONS (香港)	日本の総合病院における小児科外来の現状を明らかにするために 300施設の小児科外来に調査を実施した。1日あたりの小児外来患者の平均数は62.6人であり、平均待ち時間は36分であった。約76%がワクチンの投与と疾患の治療のために別々の時間帯を設けており、そのような施設では、待ち時間が有意に短かった。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子
13. A Study on Pediatric Outpatient Nursing Techniques for Performing Medical Examinations Effectively and Smoothly.	共	2017年3月	20 th EAFONS (香港)	小児科外来の看護師が医師の診察中にスムーズにさせるために実施している技術を明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは88件あった。カテゴリーとして「多忙な業務」「高度な専門性」「設備の使いにくさ」「理解不足の親への対応」などがみられた。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、北尾美香、藤田優一、藤原千恵子
14. 母親の口唇裂・口蓋裂をもつ子どもに関する認識と医療者への期待と実際－裂型別での比較－	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 (東京)	小児科外来の看護師が医師の診察中にスムーズにさせるために実施している技術を明らかにするために、質問紙調査を実施した。63名より回答があり、コードは20件あった。カテゴリーとして「診察の準備」「患者間違いの防止」「子どもに安心感を与える配慮」「診察の介助」などがみられた。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、藤田優一、植木慎悟、藤原千恵子
15. 夫婦間における口唇裂・口蓋裂児に関する認識と育児レジリエンスの比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 (東京)	母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の裂型別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。裂型別で比較した児に関する認識は17項目中4項目において裂型別に有意差がみられた。裂型に直結した機能上の問題が関連していることが考えられる。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：新家一輝、藤田優一、植木慎悟、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子
16. 母親の口唇口蓋裂児に関する認識：発達段階別での比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 (東京)	口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの両親である夫婦間において、口唇裂・口蓋裂に関する認識やレジリエンスの程度に違いがあるかを明らかにするために、専門外来受診時に質問紙調査を行い、両親64組を分析した。CLPに関する認識では、将来への心配に関する2項目、および自らを責める2項目において母親の得点が有意に高かった。育児レジリエンス尺度の「問題解決力」と「受け止め力」において父親の得点が有意に高かった。本人該当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人該当部分の抽出は不可能 共著者名：植木慎悟、新家一輝、藤田優一、北尾美香、松中枝理子、藤原千恵子
16. 母親の口唇口蓋裂児に関する認識：発達段階別での比較	共	2016年12月	第36回日本看護科学学会学術集会 (東京)	母親の口唇口蓋裂児に関する認識について児の発達段階別で比較し、差異を明らかにするため、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。発達段階別で比較した児に関する認識は17項目中7項目において発達

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
17. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション(三重県津市)	<p>別に有意差がみられた。児の発達に伴って不安や悩みが軽減する項目がある一方で、発達に伴って将来への心配が強くなる項目もみられた。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：藤田優一、植木慎悟、新家一輝、松中枝理子、北尾美香、藤原千恵子</p> <p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、母親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：北尾美香、松中枝理子、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子</p>
18. 総合病院の小児科外来の看護師が処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション(三重県津市)	<p>小児科外来の看護師が、処置・検査中に実施している診療や看護をスムーズにさせるための技術・工夫について明らかにするために小児科外来に勤務する看護師を対象に調査を行った。63名より回答があり、記録単位は計105件、コード数は45件であった。カテゴリーとして「デストラクションの実施」「プレゼンテーションの実施」「処置検査時は保護者同伴で実施」などが明らかとなった。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：藤田優一、北尾美香、植木慎悟、藤原千恵子</p>
19. 口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの父親の医療者への期待と実際に受けた支援	共	2016年11月	第47回日本看護学会ヘルスプロモーション(三重県津市)	<p>口唇裂・口蓋裂をもつ子どもの母親の医療者への期待と実際に受けた支援の内容を明らかにし、今後さらに充実すべき支援への示唆を得るために、父親235名を対象に質問紙調査を実施した。医療者への期待・実際に受けた支援ともに「治療や手術について、親が理解しやすいように説明してくれること」、「手術を受けるまでの哺乳・離乳食などの具体的な助言をしてくれること」、「手術後の注意や食事などの具体的な助言をしてくれること」の項目が上位3つに上がった。また、医療者への期待と実際に受けた支援の差については、ほとんどの項目で期待通りとした割合が一番多かった。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：松中枝理子、北尾美香、池美保、熊谷由加里、植木慎悟、新家一輝、藤田優一、石井京子、藤原千恵子</p>
20. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の心理的状況	共	2011年8月	第21回日本外来小児科学年次集会(兵庫県神戸市)	<p>地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の心理状態の特徴を分析した。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：北尾美香、藤原千恵子</p>
21. 熱性けいれんの子をもつ母親のけいれん時の対処行動	共	2011年8月	第21回日本外来小児科学年次集会(兵庫県神戸市)	<p>地域の小児科クリニックにおいて、わが子の熱性けいれんを体験した母親を対象にした質問紙調査によって、熱性けいれん時の対処行動の特徴を分析した。</p> <p>本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能</p> <p>共著者名：北尾美香、藤原千恵子</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
22. 看護職者のキャリア形成に関する認識	共	2010年8月	第36回日本看護研究学会学術集会（岡山県岡山市）	臨床現場で働く看護職者を対象とした自由記述調査によって、看護職者がキャリア形成をどのようにとらえているかの認識を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：上田恵子、高城美圭、常松恵子、高城智圭、北尾美香、河上智香、新田紀枝、藤原千恵子、石井京子
23. 看護職者のキャリア発達による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性の認知	共	2010年7月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、常松恵子、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
24. 看護職者による患者及び患者家族レジリエンス支援の必要性と実施の相互関係	共	2010年7月	第41回日本看護学会看護総合（山口県山口市）	3年以上の経験を持つ看護師を対象とした質問紙調査によって、看護師のキャリア発達によって患者や家族に対するレジリエンス支援の必要性と実施の相互関係を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：常松恵子、北尾美香、高城智圭、高城美圭、河上智香、新田紀枝、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
25. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援に影響する要因－	共	2009年9月	日本家族看護学会第16回学術集会（岐阜県高山市）	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族に対するレジリエンス支援の必要性に影響する要因を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：新田紀枝、河上智香、高城智圭、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
26. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－看護経験年数および職務キャリアによる実施の差異－	共	2009年9月	日本家族看護学会第16回学術集会（岐阜県高山市）	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、看護職者の経験年数やキャリア得点に寄って患者家族に対するレジリエンス支援の実施に違いがあるかを分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：高城智圭、新田紀枝、河上智香、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
27. 看護職者による患者家族レジリエンス支援－患者家族レジリエンス支援の構造－	共	2009年9月	日本家族看護学会第17回学術集会（岐阜県高山市）	3年以上の病院勤務の看護職者を対象にした質問紙調査によって、患者家族へのレジリエンスを引き出す援助の構造を明らかにした。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：河上智香、高城智圭、新田紀枝、高城美圭、常松恵子、北尾美香、上田恵子、石井京子、藤原千恵子
28. 小児看護学実習が育児体験ストレスに与える影響の主観的・客観的判定	共	2007年9月	第38回日本看護学会小児看護（茨城県つくば市）	小児看護実習を終了した学生と未終了の学生を対象に、啼泣乳児モデルから受けるストレスの程度を生理学指標を用いて比較し、実習の影響を分析した。 本人担当部分：データ収集と分析、はじめに、方法、結果、考察 担当ページ：共同研究につき本人担当部分の抽出は不可能 共著者名：北尾美香、河上智香、石井京子、藤原千恵子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 科学研究費補助金「基盤研究C」	共	2016年4月	テーマ：「小児科外来における看護実践の暗黙知の解明とSECIモデルを活用した学習方法の検証」 助成金：4,550千円	小児科外来の看護師が暗黙的に実践している「診療や看護をスムーズにさせるための知識・技術」を、知識変換の過程であるSECIモデルを用いて形式知へ変換し、学習用の動画とパンフレットを作成して外来看護師へ講習を行い、その効果を検証する。 本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：藤田優一（研究代表者）、藤原千恵子、植木慎悟、北尾美香
2. 科学研究費補助金「研究活動スタート支援」	単	2016年10月	テーマ：「口唇口蓋裂児が就学時に直面する心理的苦痛緩和のための家庭と学校間の協力支援の検討」 助成金：2,340千円	学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもをもつ母親を対象に面接調査を実施し、就学に伴う不安や就学後の心理的苦痛について明らかにした。今後学校関係者を対象に、学童期の口唇裂・口蓋裂の子どもに対する学校の対応に関する質問紙調査を実施する予定である。
3. 科学研究費補助金「基盤研究C」	共	2014年4月	テーマ：「口唇口蓋裂児の親のレジリエンスの解明と育児困難への前向き育児プログラムによる介入」 助成金：4,680千円	口唇口蓋裂をもつ子どもの親を対象に、育児レジリエンスと困難感に関する質問紙調査を実施している。現在は、育児の困難な親に対するトリプルP講習会を開催し、その有効性を検証している。 本人担当部分：講習会ファシリテーター、データ収集、分析 共同研究者：藤原千恵子（研究代表者）、藤田優一、宮野遊子、新家一輝、植木慎悟、松中枝里子、北尾美香

学会及び社会における活動等

年月日	事項